

9教科の学習計画とシラバス

【生徒の皆さんへ】

授業を理解し、充実した学校生活を送るために、家庭で学習する習慣を身につけることがとても大切です。家庭での学習内容は、宿題・テスト勉強・受験勉強等があります。しかし、どのように勉強すればいいのかわからないという人もいます。

そこで、家庭学習を進めていく上でのヒントとして、「9教科の学習計画とシラバス」を配布します。このリーフレットを読み、何をすればよいかをしっかりと理解して、自学自習する学習習慣を身につけましょう。

【この冊子の内容】

この冊子には、9教科のより細かな学習内容を掲載しています。どの時期にどのような内容を学習するのかをお知らせし、家庭学習の計画を立て、目標をもって学習をすすめやすくなっています。さらに、観点別に評価の内容を掲載していますので、何をがんばればよいのかもわかるようになっています。

小テストや実技テストなど自分の苦手な内容を予習することで苦手克服につながる学習もできます。ぜひ、この冊子を活用して、どんどん自分の実力を伸ばしましょう！！

なお、新学習指導要領への移行によりして変更された学習内容については、☆印を付けて示しています。

【ご家族の皆さんへ】

家庭での学習習慣をしっかりと身に付けるきっかけとしてこのリーフレットをご利用いただき、お子様と中学校の学習について話してみてください。

2025年度

葛城市立白鳳中学校

奈良県葛城市長尾14番地1

TEL 0745-48-2054 FAX 0745-48-3451

(E-mail) hakuhou-chu@katsuragi.ed.jp

(Homepage) <https://www.city.katsuragi.nara.jp/hakuhouchu/>

目 次

p. 3	国 語 科
p. 4	社 会 科
p. 5	数 学 科
p. 6	理 科
p. 8	音 楽 科
p. 9	美 術 科
p. 10	保 健 体 育 科
p. 12	技 術 ・ 家 庭 科
p. 16	英 語 科

※年間の学習計画は、予定ですから、変更する場合があります。予めご了解下さい。

※シラバス (Syllabus) とは、日本では講義・授業の大まかな学習計画のこと。(Wikipedia より)

本校では、次のように考えています。

- ①各教科の1年間の学習計画、学習内容、評価の観点と基準を示す。
- ②生徒が授業前の予習、授業での学習、授業後の復習を、計画と目標をもって行えるようにする。

家庭での学習はとても大きな意味を持ちます。このリーフレットは家庭での学習の計画を立て、頑張るところを理解して学習に取り組めるように作成しました。特に、学校の授業で学習したことを定着させる復習は次の授業につながる大切な学習方法です。家庭での学習を大切にしましょう。

授業を受ける前に……

1. 教科書やノートなどの持ち物を忘れない。
2. 授業を受けるときの前向きな姿勢や気持ちを大切にする。
3. 授業後は家庭での復習を大切にする。

授業での学習の進め方

1. 準備

- ★時間を守るチャイムと同時に授業開始の挨拶をしましょう。
(机の周辺を整理し、カバンは後ろのロッカーに入れておきます。)
- ★机の上には学習用具(筆記用具・教科書・ノート・ワークなど)の準備を完了しておきましょう。

2. 授業中

- ★先生の話聞くことを大切にして、ノートを丁寧に記録しましょう。
- ★先生の質問には、積極的に手をあげて、みんなによく聞こえる声で答えましょう。
- ★ペアやグループでの学習では、教え合ったり、説明したり、なかまの言うことを理解しようとしたりしましょう。

3. 授業後

- ★学習したことをもう一度振り返って、ワークの問題を解いたり、書いたりしましょう。

家庭での学習の進め方

1. 予習

次の授業で学習する内容をノートに写しておきましょう。国語であれば漢字、英語であれば単語や熟語など、前もって自分で書いたり調べたりできることを授業の前にしておきましょう。

2. 復習

授業を受けたそのとき分かったこと・覚えたことも一日一日記憶から消えていきます。だから、理解したつもり、覚えたつもりで終わるのではなく、繰り返し何度も書いたり、覚えたり、考えたりすることで知識が定着します。復習の仕方として、自主勉強(学習)を作って活用しましょう。

- ①ワーク等を使って、色々な問題を解きましょう。
- ②何度も書いて覚えましょう。大切な語句、漢字、単語などを自主勉強(学習)ノートに自分は何回くらい書けば覚えられるのか最適な回数を見つけておきましょう。
- ③何度も教材文を読みましょう。
- ④実験したことを、実験順、結果などを思い出しながら自主勉強(学習)ノートにまとめましょう。
- ⑤調べたことや分かったことを自主勉強(学習)ノートにまとめましょう。

※自分にあった勉強方法を見つけるのは大変面倒で、むずかしいものです。しかし、苦労しながら身に付けた勉強方法は、自分にぴったりあった自分だけの方法です。そこへ行き着くまで、あきらめずに続けましょう。

◇国語科 年間の学習計画とシラバス

(国語科の目標)

国語の学習を通して、普段の生活に必要な基礎的な語彙を身につけ、国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育て、伝え合う力を高めることを目標とします。また、汎用的基礎読解力(教科書、新聞、マニュアルなどの意味・意図を正確に読み取る力)の定着を図ります。そして、言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養います。

(授業で使用するもの)

・教科書 ・ノート ・ワーク ・文法ワーク ・漢字ワーク ・書写用具(硬筆・毛筆)

(評価の観点・方法)

国語科の評価は、日常の学習への取り組みや定期テスト、ノート、提出物などをもとに総合的に判断しています。具体的には以下の3つの観点を設け、それぞれについて評価の目安を定め、それに基づいて評価します。テスト前やテスト後に指示があったら、忘れずに提出しましょう。

【観点1. 知識・技能】
定期テスト(知識・技能分野)、小テスト、書写などで評価します。
【観点2. 思考・判断・表現】
授業での発言、定期テスト(思考・判断・表現分野)、暗唱テスト、作文などで評価します。
【観点3. 主体的に学習に取り組む態度】
定期テスト、小テスト、授業への取り組み方、授業中の課題や提出物(ノート、ワークなど)への取り組み方などで評価します。

国語科1年 年間の学習計画と学習のねらい(週4時間/年 140 時間)

学期	主な学習内容	学習のねらい
1	・オリエンテーション(言葉に出会うために) ・野原はうたう ・はじまりの風 ・漢字 漢字の組み立てと部首 ・ダインは大きな根? ・ちょっと立ち止まって ・文法への扉 言葉のまとまりを考えよう ・詩の世界 ・書写 学習のはじめに ・書写 楷書の筆使いと字形 ・書写 楷書と仮名を書こう	・国語学習の基本となる事柄や授業の受け方・家庭学習の方法について理解する。 ・各詩に込められた作者の思いを読み取り、思いが伝わるように音読する。 ・登場人物の心情や行動を表す表現に着目し、人物の関係の変化を捉える。 ・漢字の構成部分「偏旁冠脚」をつかみ、主な部首の名称や成り立ちを理解する。 ・段落の役割に着目して、内容を的確に読み取ったり、要約したりする。 ・段落や図と文章の関係に着目して、具体的説明の内容や意図を捉え、要旨をまとめる。 ・集めた材料について、観点を決めて分類整理するとともに、段落の役割を考えて構成する。 ・生活でよく使う味わいに関する言葉を、観点を決め語彙の分類し語感の違いに気付く。 ・言葉の単位について理解する。 ・詩の言葉を読み味わい、語感を磨く。詩の情景を想像し、表現の効果について考える。 ・文字を書くときの正しい姿勢・執筆法、用具の扱い方を確認する。 ・楷書の基本点画の筆使いを、毛筆で確認する。 ・平仮名の筆使いや、楷書と平仮名の調和に気をつけて書く。
2	・指示する語句と接続する語句 ・星の花が降るころに ・大人になれなかった弟たちに…… ・漢字の音訓 ・「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ ・いろは歌 ・蓬萊の玉の枝 ・今に生きる言葉 ・文法への扉 文の組み立て	・「指示する語句」と「接続する語句」の働きを理解する。 ・情景描写等に着目して、登場人物の心情や気持ちの変化を捉え、自分の考えを持つ。 ・登場人物の置かれた状況と、そのときの行動や様子から心情や生き方を考える。 ・漢字が日本文化に伝えられた背景を踏まえ、漢字の多様性を理解する。 ・文章の構成や展開の効果について、根拠を明確にして考える。 ・古文の仮名遣いや言葉遣い、古語の意味を理解する。 ・当時の人々の生活や文化、ものの見方や考え方を現代と重ね比較して捉える。 ・語句の意味や古文の表現の特徴に注意して、物語の展開・あらすじを理解する。 ・「矛盾」の書き下し文の現代語訳を参考にしながら読み、故事の内容を理解する。

	・漢字 ・書写 行書を書こう ・書写 年賀状を書こう	・文節相互の関係や主語・述語・修飾語・接続語・独立語について理解する。 ・行書の筆使いの特徴に注意し、字形を整えて毛筆で書く。 ・文字の大きさや配列・配置、行の中心等の既習事項を生かして年賀状を書く。
3	・少年の日の思い出 ・言葉 さまざまな表現技法 ・文法への扉 単語の分類 ・漢字 漢字の成り立ち	・登場人物の物の見方や考え方について、自分の考えをもつ。 ・様々な表現技法について関心をもち、具体的な例を通じて読み合う力や表現力を付ける。 ・単語に十種類の品詞があることや、体言・用言の区別があることを理解する。 ・漢字の成り立ちや、表意文字としての漢字の特徴やよさを理解する。

◇社会科 年間の学習計画とシラバス

（社会科の目標）

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。【中学校学習指導要領より】

（授業で使用するもの）

【必ず必要】 ・各分野の教科書 ・ノート 【必要に応じて】 ・ワーク ・タブレット

（評価の観点・方法）

社会科では、定期テストの点数だけでなく、授業中の小テストやノート・ワークなどの提出物、授業への取り組み姿勢（態度や忘れ物）、グループワークでの取り組みなどを、各観点を踏まえて総合的に評価します。観点とは、以下の評価する基準です。それぞれ、規準を設け（例：何点以上取れているか・提出物を出しているか、またその内容はどうかなど）A・B・Cの3段階で評価します。

【観点1. 知識・技能】
定期テスト、小テスト など
【観点2. 思考・判断・表現】
定期テスト、ノート、ワークシート、レポート作成 など
【観点3. 主体的に学習に取り組む態度】
定期テスト、ノート、ワーク、課題提出、小テスト、グループワークでの取り組み など

社会科1年 年間の学習計画(週3時間／年105時間)

	1学期	2学期	3学期
学 習 内 容	地理的分野 【第1編 世界と日本の地域構成】 ○世界の地域構成 ○日本の地域構成 【第2編 世界のさまざまな地域】 第1章 世界各地の人々の生活と環境 歴史的分野 【第1編 私たちと歴史】 【第2編 古代までの日本と世界】 ①人類の始まりと文明 ②日本列島の人々と国家の形成 ③古代国家の展開	地理的分野 【第2編 世界のさまざまな地域】 第2章 世界の諸地域 ① アジア州 ② ヨーロッパ州 ③ アフリカ州 ④ 北アメリカ州 ⑤ 南アメリカ州 ⑥ オセアニア州	歴史的分野 【第3編 中世の日本と世界】 ① 古代から中世へ ② 鎌倉幕府の成立 ③ 室町幕府と下剋上 地理的分野 【第3編 日本のさまざまな地域】 第1章 地域調査の手法 第2章 日本の地域的特色と地域区分

◇数学科 年間の学習計画とシラバス

(数学科の目標)

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。

(授業で使用するもの)

・教科書 ・ノート ・ワーク ・直定規 ・コンパス(必要に応じて) ・色鉛筆(色ペン)

(数学科の学習の進め方)

1. 学習があった日に、学習した内容を家庭で復習しましょう。
2. 学習したことを理解、活用できるようになるために、自分にあった学び方を考え、計画的に取り組みましょう。
うまく成果が現れないときは、学び方(やり方など)を修正したり、先生に相談したりしましょう。
3. 演習をしっかりと行いましょう。
知識、技能の習得、または活用するために、プリントやワークがあります。これらをしっかりと取り組み、提出しましょう。

(評価の観点)

具体的には以下の3つの観点を設け、それぞれについて評価の目安を定め、それに基づいて評価します。

【観点1. 知識・技能】
数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解しているか、事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理したりする技能を身に付けているかを、定期テスト、小テスト、単元テスト、課題テストなどで評価します。
【観点2. 思考・判断・表現】
数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けているかを、定期テスト、小テスト、単元テスト、課題テストなどで評価します。
【観点3. 主体的に学習に取り組む態度】
知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けて、粘り強く取り組んでいるかどうか、学び合いを通して自らの学習を調整しながら、よりよく学ぼうとしているかどうかを、定期テスト、小テスト、単元テスト、課題テストなどで評価します。提出課題は、ただ取り組みれば良いのではなく、自身の習熟度に合わせて工夫して取り組むようにしましょう。

数学科1年 年間の学習計画と学習のねらい(週4時間/年 140 時間)

学期	月	学習内容	学習のねらい
1		オリエンテーション	・学習の目標、授業の受け方、家庭学習の仕方などを考える。
	4	1. 正の数と負の数	・身近にある負の数の例を通して負の数の意味や正負の数の性質を知る。
	5		・正負の数の四則計算ができる。計算法則を知る。
	6	2. 文字と式	・数の集合と四則計算の可能性を考える。
	7		・素数について理解し、素因数分解ができるようになる。
2	8	3. 1次方程式	・身近にある具体的な事象等のいろいろな数量を文字式で表す。
	9		・文字式の意味、表し方のきまりを知る。式の値の意味と求め方を知る。
	10		・1次式の四則計算ができるようになる。
		4. 比例と反比例	・具体的事象を、文字を用いた等式・不等式で表す。
			・方程式とその解の意味を知る。
			・等式の性質、簡単な1次方程式を解くことができるようになる。
			・かっこ、係数に小数や分数のある1次方程式や比例式を解けるようになる。
			・いろいろな問題を、方程式を利用して解決できるようになる。
			・身近にある比例・反比例の関係や関数の意味を知る。
			・比例・反比例の意味と特徴、比例・反比例を表す式・グラフで表すことができる。

	11		・条件を満たす比例・反比例の式を求める方法 ・座標に関する用語とその意味、比例と反比例の考え方を使った問題を解決する。
		5. 平面図形	・線分・半直線・垂線・中点と垂直二等分線・角の二等分線等の意味を知る。 ・平行移動・対称移動・回転移動の意味とその性質、図形をかくことができる。 ・円の性質を知る。 ・角の二等分線・垂線・垂直二等分線・円の接線等いろいろな作図ができる。
	12		
3	1	6. 空間図形	・身近にある立体を知り、多面体をつくる活動をする。 ・角すい・多面体・正多面体・立体・回転体の見取図・展開図・投影図を作図できる。 ・平面の決定、空間での2直線・直線と平面・2平面の位置関係を知る。 ・おうぎ形の弧の長さや面積、立体・球の底面積・側面積・表面積・体積の意味を知り、求めることができるようになる。
	2		
	3	7. データの活用	・データの分布 身近な資料のいろいろな見方を考える。 ・範囲と資料のちがひ・度数分布表、ヒストグラムのしくみと用語を知る。 ・階級や階級の幅の決め方、総度数が異なる2つの資料の比較や度数分布表から平均値を求める。 ・累積度数、累積度数分布表、累積相対度数の用語を知る。 ・代表値〔平均値、中央値、最頻値〕の特徴と有用性を知る。 ・確率 多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解する。

◇理科 年間の学習計画とシラバス

（理科の目標）

理科を通じて、自然の事物現象に対する興味や関心を育み、自ら実生活と関連付けながら科学的な知識や理解を深め、定着を図ることを目標とします。また、観察や実験を通して科学的な見方や考え方、表現力、技能を育むとともに、文章やデータ、実験結果などを的確に読み取り、論理的に考察する力を養い、問題解決能力の基礎を培います。具体的には、授業の導入で日常の現象と関連付けながら考えさせ、可能な限り実験や観察を取り入れるとともに、デジタルコンテンツを活用して視覚的・文書的な情報の理解を促します。

（授業で使用するもの）

・教科書 ・ノート ・ワーク ・ファイル

（学習のポイント）

- ・授業をしっかり聞いて、黒板の板書をノートや授業プリントにいてねいに写しましょう。
- ・ワークやプリントなどを使って授業の復習をしましょう。
- ・宿題などの提出物は、しっかりと仕上げて期限を守って提出しましょう。
- ・理科はなぜ？どうして？の学問なので、その疑問を解決できるように学習に取り組みましょう。
- ・観察や実験では、ただ手を動かすだけでなく、なぜ？どうして？と考えながらやるようにしましょう。
- ・普段から自然・天体現象に興味を持ち、科学番組や自然番組を見るように心がけましょう。
- ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、それらへの粘り強い取組を行う中で、自ら学習を調整しようとする側面、という二つの側面を意識して取り組みましょう。

（評価の観点・方法）

理科では、日常の学習への取り組みや定期テスト、提出物などをもとに総合的に評価しています。

具体的には次の3つの観点において、それぞれについて評価の目安を定め、それに基づき評価しています。

よく内容を確認して、学習に取り組むようにしましょう。

【観点1:知識・技能】
定期テスト、小テスト、ノート、ワーク、課題プリント、実験・観察レポート、パフォーマンステストなどで評価します。
【観点2:思考・判断・表現】
定期テスト、小テスト、ノート、ワーク、課題プリント、実験・観察レポート、発表、話し合い活動などで評価します。
【観点3:主体的に学習に取り組む態度】
定期テスト、小テスト、ノート、ワーク、課題プリント、実験・観察レポート、発表、授業への取り組み方などで評価します。 ※ノートやワーク、実験・観察レポートに必要事項を書いて提出すれば良い評価になるというわけではありません。また、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、それらへの粘り強い取組を行う中で、自ら学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価をします。そのため、観点1及び2の状況を踏まえた上での評価となります。

理科1年 年間の学習計画と学習のねらい(週3時間/年105時間)

学期	単元	章	生徒観察・実験
1 学 期	自然の中に あふれる生命 (9)		観察1 身のまわりの生物の観察【季】 探Q実習1 生物のなかま分け
	【生命】 いろいろな生物と その共通点 (18+1)	単元導入 (1), 学ぶ前にトライ! 1章 植物の特徴と分類 (7) 2章 動物の特徴と分類 (8) 力だめし, 学んだ後にトライ! (1) 動物園・水族館の展示方法	観察2 花のつくり【季】【顕】 観察3 葉と根のつくり 観察4 動物の体のつくりと生活
	【物質】 身のまわりの 物質 (26+2)	単元導入 (1), 学ぶ前にトライ! 1章 いろいろな物質とその性質 (7) 2章 いろいろな期待とその性質 (8) 3章 水溶液の性質 (6) 4章 物質のすがたとその変化 (6) 力だめし, 学んだ後にトライ! (1) 古くて新しいガラスの世界	探Q実験1 謎の物質Xの正体【ガ】 実験2 密度による物質の区別 実験3 酸素と二酸化炭素の発生とその性質 実験4 身のまわりのものから発生する気体 実験5 水にとけた物質のとり出し【顕】【ガ】 実験6 エタノールが沸騰する温度【ガ】 実験7 水とエタノールの混合物の加熱【ガ】
2 学 期	【エネルギー】 光・音・力に よる現象 (24+1)	単元導入 (1), 学ぶ前にトライ! 1章 光による現象 (8) 2章 音による現象 (5) 3章 力による現象 (9) 力だめし, 学んだ後にトライ! (1) 自動運転を支える光と音の科学	実験1 光が鏡ではね返るときの進み方 実験2 空気と水の間の光の進み方 実験3 凸レンズによってできる像 実験4 音のちがいと振動のようすの関係 探Q実験5 力の大きさとばねののびの関係 実験6 2力がつり合うための条件
	【地球】	単元導入 (1), 学ぶ前にトライ!	
3 学 期			

	活きている地球 (22+2)	1章 身近な大地 (3) 2章 ゆれる大地 (4) 3章 火をふく大地 (6) カだめし、学んだ後にリトライ！ (1) 昔の地球を読みとく時空の旅へ	実習1 地震のゆれはじめの特徴 探Q実験1 マグマの性質と火山の形の関係 観察1 火成岩の観察 観察2 堆積岩の観察 観察3 地層の観察
--	-------------------	--	--

※年間授業時数 105 時間 ※授業の進度はあくまでも目安です。

◇音楽科 年間の学習計画とシラバス

(音楽科の目標)

- (1)音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てることを目標とします。
- (2)多様な音楽表現の豊かさ美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てることを目標とします。
- (3)多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てることを目標とします。

(授業で使用するもの)

・教科書 ・器楽の教科書 ・ワーク ・アルトリコーダー

(評価の観点・方法)

音楽科では、授業態度や実技テスト、定期テスト、提出物などをもとに総合的に判断しています。

具体的には以下の3つの観点を設け、それぞれについて評価の目安を決め、それに基づいて評価します。提出物は指示があったら、必ず提出しましょう。

(評価基準)

各領域ごとの評価のめやす (評価基準)

観点1 知識・技能	観点2 思考・判断・表現	観点3 主体的に学習に取り組む態度
・音楽表現の工夫(理解) ・鑑賞の能力(理解) ・提出物(プリントやワーク) ・歌唱及び器楽のテスト ・定期テスト	・音楽表現の工夫 ・歌唱及び器楽のテスト ・鑑賞の能力(よさや美しさを味わう) ・定期テスト	・授業への取り組み方 ・授業準備物 ・歌唱および器楽のテスト ・提出物 ・定期テスト

音楽科1年 年間の学習計画と学習のねらい(週 1.3 時間/年 45 時間) 0.3 時間は1学期にまとめて実施

学期	学習内容	学習のねらい
1	出会いの喜びを歌おう 「校歌」「Forever」他	仲間とともに一緒に歌うことの喜びや、楽しさを味わうようにする
	鑑賞「春」	ソネットと音楽の関わりや音楽の形式を理解して鑑賞する
1	アルトリコーダー 「リコーダーは最高」他	アルトリコーダーの基礎的な奏法を身につける 楽器の扱い方、姿勢、息の入れ方などを理解する 楽器に親しむことで、より音楽に興味、関心を持たせる
	歌唱「浜辺の歌」他	表現するための基礎的な発声や技能を理解し、曲想を感じ取って表現する 我が国の自然や四季の美しさを感じ取る

2	歌唱「赤とんぼ」 日本の民謡と芸能	言葉と旋律との関わりを感じ取って歌おう 日本の民謡や芸能の特徴を聞き取ろう
	鑑賞 「魔王」	音楽を形づけている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、イメージを膨らませ、情景を想像する。楽曲の多様な表現のおもしろさを味わう
	合唱(校内音楽会)	声部の役割を感じ取り、全体の響きに気をつけて合唱する 旋律の重なり方のおもしろさを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌う
3	箏曲	和楽器に親しむ
	鑑賞「雅楽:越天楽」 「六段の調べ」など	音楽の特徴をその背景となる文化・歴史と関連付けて、鑑賞する 和楽器の音色や奏法、旋律などに関心を持ち、基礎的な奏法を身につけて演奏し、箏曲を鑑賞する
	旋律を作って表現しよう	音楽や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくる
	希望をふくらませて歌おう 「Let's search for tomorrow」等	歌詞の内容や情景を理解し、歌い方を工夫させる 心をこめて、次年度につながるように、表情豊かに意欲的に表現する

◇美術科 年間の学習計画とシラバス

(美術科の目標)

- ・日常生活の身近なものの中から美しい形や色彩を見つけ出し美との出会う喜びを味わわせることを目標とします。
- ・自分がイメージした形や色を描けたりつくれたり、また、そこから発想を広げていける能力や感覚を育てることを目標とします。

(授業で使用する基本的な準備物)

- ・教科書 ・美術資料集 ・鉛筆(2B) ・色鉛筆 ・サインペン(黒)・ボールペン(黒)
- ・アクリルガッシュ(セットは学校で販売します) ・のり ・その他材料

(美術科の学習の進め方)

1. 授業中は決められた席で作業し、指示がない限り席を移動しないようにしましょう。
2. 忘れ物をしたときは、授業の初めに教科担当の先生に連絡をしましょう。
3. 学校の備品や道具を使用するときは、教科担当の先生に許可をもらい丁寧に取り扱いましょう。
4. 説明を聞き作業を行うのが基本です。まずは説明をよく聞き、何を制作するのかしっかりイメージしましょう。
5. 制作を通して自己の内面にいかにせまることができるか。自分の良い面を探し出して表現しましょう。
6. 時間内での未完成作品については、教師の指示に従い提出期限を守りましょう。

(評価の対象)

- ・作品 ・定期テスト ・授業の態度 ・忘れ物 振り返りシート

(評価の観点と方法)

観点1	観点2	観点3
習得すべき知識や概念を理解したり、技能を習得したりしているかについて評価します。	知識及び技能を活用して課題を解決する等に必要の思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかについて評価します。	知識及び技能を獲得したり、思考力判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で自分の学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価します。
作品 テスト 振り返りシート	図案プリント テスト 作品 振り返りシート	授業への取り組み テスト

美術科1年 年間の学習計画と学習のねらい(週 1.3 時間／年 45 時間) 0.3 時間は3学期にまとめて実施

学期	学習内容	ポイント	評価
1	授業についてのオリエンテーション ○色のもつイメージと性質について ・色彩について学習する ・アクリルガッシュを使って簡単な制作 ・色相環づくり ○レタリング 「永」の文字をレタリング ・名前も文字のレタリング 「永」の文字をレタリング	授業や作業、準備物など知っておくこと ・授業や作業、準備物など知る ・図工から美術へ ・制作活動に興味・関心をもち、意欲的に取り組む姿勢を身につける ・色の持つ特性を理解し、色の三属性や性質について学ぶ ・明暗の段階を見分けられる ・絵の具の種類や特性を学ぶ ・明朝体、ゴシック体の特徴を理解する ・全体のプロポーションを考えて描く	・色について理解できる ・用具・道具扱い方について理解し、必要なものの準備を行える。 ・絵の具の特性を生かして色むらなく美しく仕上げることができる ・振り返しシートを活用する ・2つの書体の特徴を理解し、それぞれの書体を使って、美しくレタリングできる ・漢字一文字で名前の由来・生命の大切さを絵画で表現できているか
2	・○ゼンタングル ・構成美の要素について学習する	・色の持つ性質や組み合わせによる効果を考える。 ・色のテーマをどう配色するかを考える。 ・地域にある文化財を意識して作品に生かす。	・色について理解できる ・美的感覚を働かせ、形や色等の組み合わせを簡潔・統合化して効果的なデザインができたか ・図案が複雑になりすぎない ・振り返しシートを活用する ・作品が丁寧にできたか
3	・○モダンテクニック ・デカルコマニー ・マッピング ・ドリップング ・フロッターージュ 等 ○空想画	・様々な芸術作品の見方や作品に対する考え方を学ぶ。 ・本物そっくりになるように質感を工夫する 様々な技法を知り、配色によって、人間の視野に働きかける性質があることを理解し、色んな場面で色を選ぶセンスを表現する。	・イメージ通りに構成されている ・作品の見せ方が工夫されている ・色方法が工夫されている。 ・振り返しシートを活用する ・表現したいものが他に伝える作品に仕上がったか ・技法を上手く活用することができたか ・作品に丁寧さがあるか

◇保健体育科 年間の学習計画とシラバス

(保健体育科の目標)

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指します。

(体育分野の目標)

- ① (1、2年)運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにします。
(3年)運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにします。
- ② (1、2年)運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養います。
(3年)運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養います。

- ③ (1、2年)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養います。
- (3年)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養います。

(保健分野の目標)

保健の見方・考え方を働かせて、課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯を通じて心身の健康を保持増進するための資質・能力を育成することを目指します。

(評価の観点及びその趣旨)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身につけている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者につたえている。また、個人における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切に、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

(体育分野の評価の観点・方法)

知識・技能	思考・判断・	主体的に学習に取り組む態度
各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解しているとともに、各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	運動を豊かに実践するための自己の課題を発見し合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲を持ち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。
定期テスト 小テスト 発問に対する発言内容 実技テスト 行動観察 (練習・試合での技能)	学習カード・プリント 学習ノート 行動観察 (練習内容・質問内容)	授業態度 (出欠席・見学・遅刻・服装・忘れ物) (協力・発言、試技回数) 学習カード・ノート・プリント提出 実技テスト * 主体的に取り組むだけでなく、習得において自ら学習を工夫・調整する必要があります。そのため、観点1及び観点2の状況を踏まえた上での評価となります。

(保健分野の評価の観点・方法)

知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達や心の健康と環境、傷害の防止、健康と環境について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達や心の健康と環境、傷害の防止、健康と環境について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達や心の健康と環境、傷害の防止、健康と環境について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。
定期テスト 小テスト 発問に対する発言内容	学習ノート 学習プリント 行動観察	授業への取り組み方(忘れ物・発言) 学習ノート・プリント提出

保健体育科1年 年間指導計画(週3時間/年105時間)

学期	男女	保健・体育理論	体育的行事
1	体づくり運動 陸上競技 球技(ネット型) 器械運動(マット運動) 水泳	・健康な生活と疾病の予防 ・心身の機能の発達と心の健康 ・運動やスポーツの多様性	スポーツテスト(6月)
2	体づくり運動 水泳 器械体操(マット運動) ダンス 球技(ゴール型) 武道 陸上競技		体育祭(10月)
3	体づくり運動 武道 球技(ゴール型) 球技(ネット型)		

◇技術・家庭科 年間の学習計画とシラバス

第一学年では、前期(1学期～2学期前半)に技術を行い、後期(2学期後半～3学期)に家庭を行います。

○技術科

技術科は、年間を通じて次のような目標を立て、観点別評価を行います。

(学習目標)

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指します。

(学習内容)

3年間で技術分野は「材料と加工の技術」、「エネルギー変換の技術」、「生物育成の技術」、「情報の技術」が学習内容になっています。1 年生では、「材料と加工の技術」と「情報の技術」について学習予定です。「材料と加工の技術」では、材料の技術について・加工の技術について・製図の基礎、・木材を使った制作・社会や環境との関わりについて学習します。「情報の技術」では、コンピュータの構成について・情報を伝える仕組み・情報通信ネットワークの危険性・情報モラルについて・パソコンの基本操作・プログラミングについて学び、社会や環境との関わりについて学習します。

(授業で使用するもの)

・教科書、資料集、授業プリント、ノート(授業プリントを貼る用)

(評価の観点)

観点1 知識・技能	観点2 思考・判断・表現	観点3 主体的に取り組む態度
生活や社会で利用されている材料と加工の技術及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係わる技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。	生活や社会の中から技術に係わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
評価の方法 ・テスト(課題テストを含む) ・授業プリント ・技能課題 など	評価の方法 ・テスト(課題テストを含む) ・話し合い活動 ・発表 など	評価の方法 ・テスト(課題テストを含む) ・授業への取り組み姿勢 ・授業の振り返り など

技術科1年生の学習計画(週1時間/年35時間)

期間	学習内容(時数)	学習のねらい
1 学期	・材料の技術について ・加工の技術について ・製図の基礎 ・木工作品の制作	・木材・金属・プラスチックなどの材料の特徴を理解し、選択することができる。 ・のこぎりややりなどの使用方法や特徴を理解することができる。ねじや釘、接着剤などの接合方法を理解することができる。やすりがけやかんながけなどによる部品修正の方法について理解することができる。 ・等角図、第三角法による正投影図の読み取り、製図を行うことができる。 ・工具の使用方法を理解し安全に実習することができる。
2 学期前半	・コンピュータの構成について ・情報を伝える仕組み ・情報通信ネットワークの危険性 ・情報モラルについて	・ハードウェア、ソフトウェアについて理解することができる。 ・通信プロトコルや、パケット通信などの通信の技術について理解することができる。 ・インターネット利用時の注意する点など理解することができる。 ・インターネットをルールやマナーを守って快適に利用することができる。人権や個人情報の保護について理解することができる。・知的財産権について理解することができる。

（学習方法について）

『学校』

- ・授業に必要なものをきちんと準備しましょう。
- ・先生の指示以外でも、気付いたことや重要だと思ったことは、プリントやノートにどんどん書き込んでいきましょう。
- ・プリントの記入をしっかりとしましょう。
- ・授業プリントに自身の意見を書く場合は、しっかりと考えかきましょう。
- ・実習では、工具などを使います。先生の指示をよく聞いてけがなく安全な制作を心がけましょう。

『家庭』

- ・学習した内容の復習を行い、定着させましょう。
- ・身の回りの技術について、興味を持ってみましょう。学校で勉強した技術を身の回りから探してみましょう。
- ・何か授業内容以外の技術について疑問に思ったことがあれば、調べてみましょう。

○家庭科

（家庭科の目標）

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、より良い生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指します。

1. 家庭科1年 学習のねらい

学習のねらい	【家族・家庭生活】 ① 家庭分野の学習に見通しをもち、3年後になりたい自分になるための課題を明らかにする。 ② 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解する。 【衣食住の生活(食生活)】 ① 食品や調理用具等の安全と衛生に留意しながら、基本的な調理操作を身に付ける。 ② 自分が食べる弁当づくりを通して、食事作りの課題を発見し、より良い食生活のあり方を工夫する力を身に付ける。 ③ 魚や肉の衛生的な安全な取扱いと調理の目的に合った加熱方法を習得する。 ④ 食文化の成り立ちを理解し、自分の住んでいる地域の食文化について理解する。 ⑤ 食事の役割を理解し、健康に良い食習慣について考える。 ⑥ 中学生に必要な栄養素の特徴を理解する。 ⑦ 栄養素の種類と働きがわかり、食品の栄養的特質について理解する。 ⑧ 1日分の献立作成の方法を理解し、作成する。 ⑨ 用途(目的・栄養・価格・作業の能率・環境への影響など)に応じた食品の選択を行うための知識を身に付け、情報を主体的判断できるようにする。 ⑩ 自分たちの食生活をSDGsの視点から振り返り、食生活のあり方について考える。
	使用教材 ・技術・家庭 家庭分野（開隆堂） ・家庭科ワークノート（地域教材社）

2. 評価の観点および方法(テスト前やテスト後に指示があったら、忘れずに提出しましょう。)

評価の観点		評価の方法
① 知識・技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	・ペーパーテスト ・学習プリント ・計画・実践記録表 ・行動観察など
② 思考・判断・表現	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構	・話し合い等の学習活動 ・学習カード ・計画・実践記録表

	想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・活動記録をまとめたポートフォリオ ・行動観察 ・ペーパーテストなど
③ 主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	・行動観察(授業中の発言) ・学習プリントやノート ・タブレットによるレポート ・計画・実践記録表 ・活動記録をまとめたポートフォリオなど

3. 学習計画(週 1 時間／年 35 時間時間)

学期	学習内容(時数)	学習のねらい
2学期 後期	家庭分野の学習について	家庭分野の学習に見通しをもち、3年後になりたい自分になるための課題を明らかにする。《知・技・主》
	《家庭・家族と子どもの成長》 1. 自分の成長と家族・家庭生活 《衣食住の生活(食生活)》 4. 日常食の調理	・自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解する。《知・技・主》 ・食品や調理用具等の安全と衛生に留意しながら、基本的な調理操作を身に付ける。《知・技・主》
2・3 学期	《衣食住の生活(食生活)》 4. 日常食の調理 5. 地域の食文化 1. 食事の役割と食習慣 2. 中学生に必要な栄養素を満たす食事 6. 献立作り 3. さまざまな食品とその選択 7. 持続可能な食生活	・魚や肉の衛生的な安全な取扱いと調理の目的に合った加熱方法を習得する。《知・技・思・判・表、主》 ・食文化の成り立ちを理解し、自分の住んでいる地域の食文化について理解する。《知・技・主》 ・食事の役割を理解し、健康に良い食習慣について考える。《知・技・思・判・表、主》 ・中学生に必要な栄養素の特徴を理解する。《知・技・主》 ・1日分の献立作成の方法を理解し、作成する。《知・技・主》 ・用途(目的・栄養・価格・作業の能率・環境への影響など)に応じた食品の選択を行うための知識を身に付け、情報を主体的判断できるようにする。《知・技・思・判・表、主》 ・自分たちの食生活を SDGsの視点から振り返り、食生活のあり方について考える。《知・技・思・判・表、主》

(授業で使用するもの)

・教科書 ・ノート ・プリント ・映像機器 ・ICT 機器

(学習方法について)

『学校』

- ・授業に必要なものを準備しましょう。
- ・授業は積極的に取り組み、プリントやノートも見やすくまとめましょう。
- ・実習は学んだことを体験する貴重な機会です。真面目に取り組みましょう。

『家庭』

- ・学習したことを家で実践し、復習と定着に努めましょう。
- ・授業を自分の家庭生活を振り返る機会とし、より良くする手だてを各自でよく考えましょう。
- ・新聞やテレビなどからの、生活に関わる情報に関心を持ちましょう。

◇英語科 年間の学習計画とシラバス

(英語科の目標)

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと(やり取り・発表)、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質能力を養う事を目標とします。

(授業で使用するもの)

・教科書 ・ノート ・ワークブック ・ファイル ・(タブレット)

(評価の観点・方法)

英語科では、以下の3つの観点を設け、それぞれについて評価の目安を定め、それに基づいて評価します。

定期テスト、小テスト、パフォーマンステストについては、日々の予習復習に加え、事前の準備をしっかりとしましょう。

ノート、ワークなどの提出物の評価については、その後に実施される各小テストの内容を見て評価しますので、ワークの内容がどれだけ習得されているかにこだわって取り組みましょう。学習の手引きを参考にして、日々主体的に取り組みましょう。

【観点1. 知識・技能】
定期テスト、小テストなどで評価します。
【観点2. 思考・判断・表現】
定期テスト、小テスト、パフォーマンステストなどで評価します。
【観点3. 主体的に学習に取り組む態度】
授業への取り組み方、ノートの内容、小テスト、単元テスト、定期テストの取組などで評価します。

英語科1年 年間の学習計画と学習のねらい(週4時間/年 140 時間)

履修月	学 習 内 容
I 学 期	4月 アルファベットの音や文字、文の書き方などの復習 予習について(辞書の引き方、ノートの取り方)
	Unit1 I am [like] ... / Are [Do] you ...? / can(...できる)の文
	5月 Unit2 This [That, He, She] is ... / Is that[this]...? / What [Who] ...? / How [What] do you ...? / 6月 be 動詞と一般動詞の復習
	Unit3 Where [When] ...? / I want to ... / How many ...? / 7月 名詞の復習
	Unit4 命令文 / What time ...? / What + 名詞 ...? / 疑問詞の復習 ○サマーワーク
2	9月 ○サマーワークの確認テスト Unit5

学 期	10 月	前置詞 / like ...ing / be good at ...ing / 過去の表現 (小学校の復習) Unit6 三人称単数現在形 / 許可、依頼の can
	11 月	Unit7 人称代名詞 / Which ..., A or B? / Whose ...? / 体調について Unit8 現在進行形 / 感嘆文 / カードの書き方 Unit9 不定詞 (名詞用法) / What [where] do you want to ...? / look + 形容詞 / 道案内
	12 月	○冬休みの宿題
3 学 期	1 月	○確認テスト Unit10 一般動詞の過去形
	2 月	Unit11 be 動詞の過去形 / 過去進行形 / There is [are]
	3 月	○春休みの宿題